

西表島のマリンアクティビティーで活躍する ハイセンスなセンターコンソール

優れたデザインと確かな造り込みで知られるクリスクラフトは、1世紀以上前にアメリカで創業した、木造船の時代から続く名門ビルダーだ。その29フッターのセンターコンソール、カタリナ29サンテnderが日本に初上陸し、沖縄県・西表島のマリンアクティビティーの現場で活躍中。優美なボートで絶好のロケーションを味わい尽くす、魅惑の海遊び取材した。

[文] 今村 信 (本誌) [写真] 山岸重彦 (本誌)

クリスクラフト・カタリナ29サンテnder CHRIS-CRAFT CATALINA 29 SUN TENDER

現行ラインナップは ほぼすべてオープン艇

カタリナ29サンテnderを手がけるクリスクラフトは、19世紀後半に創業したアメリカ東部の老舗ボートビルダーで、現在まで続く同国のボートビルダーの中では、最も古いところの一つだ。

その長い歴史と確かな品質、そして、このビルダーが手がけた高級モデルのオーナーにさまざまな著名人がいたことから、伝説的な名声を得ていたが、20世紀後半には度重なる買収や親会社の倒産によって経営体制が不安定化したことで、その製品からかつての魅力が失われた時期もあった。

しかし、2001年に現在のオーナー会社を買収されて以降は、モダンクラシクなデザインでラインナップを一新。1世紀以上続く歴史の中で20万艇が販売されたという、名門としての伝統が復活してきた。

現在のラインナップは、22〜36フィートのランナバウトを中心に構成される「コルセア」、20〜36フィートのパウライダータイプからなる「ランナ」、そして、23〜34フィートのセンターコンソールが並ぶ「カタリナ」の3シリーズを柱とした全21モデル。

そのうち、パイロットハウスを備えるのはコルセア36ハードトップの1艇種のみで、それ以外の全艇種がオープンボートという点が大きな特徴といえるだろう(ただし、カタリナシリーズは全艇種にソフトトップが付く)。

そして、全モデルに共通しているのが、卓越したデザインセンスである。古い洋画に登場してもおかしくないようなトラッドさがありながらも、十分にモダンテイストを取り込んでいたので古くさくはななく、かつ洗練されたエレガントさを備えている。つまり、圧倒的におしゃれでかっこいいのだ。

本誌ではこれまで、ラインナップ変更後のクリスクラフトのボート3

旋回は極めてスムーズで、思った通りのラインを的確にトレースすることができる。旋回時の内傾は適度で、ボートの挙動も非常に穏やかだ



艇種を、終了した連載「タダミのマイ・フエバットボート」で紹介してきた(04年8月号「ランナ28」/05年12月号「スピードスター(現行ラインナップにはない)」/07年12月号「カタリナ23」)。筆者であるマリンイラストレータータダミさんは、い



ずれの回でもその造形美について誌面の多くを割いているが、実艇を目にする、それも納得である。

理想を追求し 西表島でチャーターを

今回紹介するカタリナ29サンテンダーのオーナー、藤村雅史さんは、昔から海が大好きで、自らボートを操船できたなら最高だなどと思い、十数年前にボート免許を取得。同時に、シーレイ290サンダンサーを入手

し、神奈川県横浜ベイサイドマリーナをホームポートとしてボートライフをスタートさせた。さらに数年後には、よりたくさんのゲストが乗れるようにとプリンセス45を購入。だが、理想と現実の違いに、いったんはボートを手放すことにしたという。「釣りには興味がなかったので、友人を呼んでクルージングを楽しんでいたんですが、45フィート艇でも、荒れたときはキツイんですね。で、そういうときに乗ったゲストは足が遠のいてしまう。かといって、このサ

この角度から見ると、フレアが大きく張り出した船首と、上すぼまりになったタンブルホームの船尾が組み合わさった、独特なデザインがよくわかる



取材時とはとても穏やかなコンディションだったとはいえ、波当ての柔らかさや、最高速でも操船者に緊張を強いることがないゆとりある感覚は特筆ものだ

西表島の北西部に位置するウルチ崎沖を快走するカタリナ29サンテンダー（●●●●●●●●●●）。ネイビーとアイボリーのカラーリングをまとった特徴的な艇体のラインは、南国の青い海と濃い緑にもマッチする。マーキュリー・ベラード250を2基搭載し、試乗時はおおよそ38ノット（搭載されていたGPSプロッターによる）の最高速を記録した





イダの浜沖にアンカリングして、シュノーケリングを楽しむ藤村さん親子。メラマウリゾートのツアーを利用すれば、こんなロケーションでのおしゃれなボートینگを楽しめる



シュノーケリング中の様子を水中から。船底形状はトランサムデッドライズ21度のディーブV。船尾には艇体と一体のモーターブラケット部分が張り出し、その下に大きめのフラップが備わっている

イズになると一人では気軽には出せないし、維持費もかかる。それに、東京湾は三角波がひどくてコンディションがいい日が少ないし、海もきれいいじゃない。クルージングの目的地として気軽にゆつくり楽しめる場所も少ないですよ」

その後、どうやってボートینگを続けようかと模索していたところ、知人から、沖縄県・西表島でチャータークルーズ業を始めたとの相談を受ける。西表島となると、決して気軽に乗りに行けるわけではないが、現地に足を運びさえすれば、絶好のロケーションでボートینگを楽しむことができる。そこで、理想とするおしゃれでプライベート感を満喫できるボートینگメニューを提供することを条件に、藤村さんが使用艇を購入することにした。この知人が、

本誌8月号の特集でビーチング指南していた、メラマウリゾートの代表、國井健二さんだ。

メラマウリゾートでは、西表島の自然を生かした各種ツアーを海と山の両方で開催しているのだが、海では、シュノーケリングや釣りなどのコースを設定したチャータークルーズを実施。貸し切りで、ほかの利用者に気兼ねすることなく、自分の希望に合わせて楽しみ方ができるのが特徴だ。また、どのコースでも、艇上もしくはビーチングした砂浜での、本格的なランチを楽しむのも大きなポイントである。

このサービスが人気を呼び、利用客が増えてきたこともあって、昨年、國井さんからより大きなボートの導入を相談された藤井さんは、たまたま、海外旅行先の空港で購入した現地のボート雑誌で、クリスクラフトの広告を見かけた。

「国産艇にはないスタイルの、初めて見るボートだったので、帰国後にネットで調べてみたんです。すると、伝統あるビルダーだというし、しゃれたデザインも気に入りました」

その後、国内のディーラーを紹介してもらい、海外のボートショーで別モデルながらもクリスクラフトのボートに試乗するなどして、カタリ



（●●●●●●●●●●）オーナーの藤村雅史さんと、娘の奈々緒さん。以前は横浜でボートライフを楽しんでいた藤村さんだったが、よりプライベート感のあるボートینگを楽しみたいとの思いもあり、西表島にボートを置くことにした

ナ29サンテンダーをオーダー。今年3月に進水したが、この（●●●●●●●●●●）だ。

約40ノットの最高速でもソフトな乗り心地

クリスクラフトのカタリナシリーズには、同じ艇体をベースとした、フィッシング仕様のカタリナ29と、ここで取り上げる、より居住性を重視したカタリナ29サンテンダーの2モデルがラインナップされている。主な違いは、アフトコクピットのアレンジとTトップの仕様、そしてシートファブリック類といったところ。29サンテンダーは、アフトコクピットに折りたたみ式テーブルとコの字形のシートが標準装備され、Tトップが

ハイクオリティーボートが演出する 極上の海遊びと船上ランチ



(上) サバ崎沖のポイントで、釣りを楽しむ。コクビットの深さが十分にあるので、子ども連れでも安心して楽しめるし、全周に取り外し可能なボルスターパッドが設けられているのもいい



(左) 仕掛けはシンプルなおウヅキ2本入り。冷凍してあった魚の切り身をエサに付けたのだが、1投目から沖縄らしい魚がヒットした

奈々緒さんがキャッチしたタマン(ハマフエフキ)。一それといふ海底起伏があるわけでもない場所、パラシュートアンカーを入れてゆっくり流しながら仕掛けを下ろすだけ。それでも、小一時間ほどでバタバタと釣果が上がって、魚影の濃さを実感する



西表島で、海でのチャータークルーズと、島内でのトレッキングやカヤッキングのガイドを行う「メラマウリゾート」の代表、國井健二さん。ちなみに、メラマウとは、國井さんが以前働いていたパラオの言葉で「青」という意味。

各種ツアーの詳細は、下記サイトを参照のこと
メラマウリゾート
沖縄県八重山郡竹富町字上原 10-681
TEL: 0980-85-7073
<http://www.mellemau.com/>

スライド式の延長部分を備えたキャンバス仕様となる。

なお、29サンテンダーには、スタンダード、トーナメント、サンテンダーの3タイプのデッキアレンジが用意されており、トーナメントを選べばヘルムシート下にライプベイトウエルが標準装備されるなど、フィッシング寄りの仕様とすることも可能。さらに、アクセントとなるチークの使い方と素材が、スタンダード、ヘリテージ・トリム、プラスチックの3パターンから選べるほか、ハルカラーオプションも豊富である。ちなみに、(●●●●●●●●)は、サンテンダータイプにヘリテージ・トリムの組み合わせだ。

さて、取材当日は、沖縄地方が梅雨入りした直後だったが、一瞬、ごく弱いスコール性の雨に降られただけで、1日を通して、波も風もほとんどない絶好の条件に恵まれた。

この日のプレーメニューは、西表島北西部に位置するイダの浜の沖にアンカリングして、透明度抜群のきれいな海でシノーケリング。その後、イタリアンのコースランチを挟み、わずから5分足らずのポイントに移動して釣りに挑戦。さらに、ウミガメが見られるという崎山湾で再度シノーケリングという、盛りだ

くさんの内容だ。

途中、同乗していて何より印象的だったのは、波当たりが非常に柔らかかったこと。穏やかなコンディションとはいえず、ときには小さな波に身構えることもあったのだが、衝撃を感じることもしみ音を聞くこと

もないまま、いつの間にか波の上を通りすぎているといった感じで、非常にソフトな乗り心地なのである。これは、一体成型したコクピットライナーに、不沈性確保とノイズ低減のための発泡材を充填した構造によることも大きいはずだ。



メラマウリゾートでは、チャータークルーズのいずれのコースでも、コース料理のランチが楽しめる(使用艇がカタリナ29の場合は「プライベート船上レストラン」、AS-21でピーチングした場合は「プライベートピーチレストラン」)。下ごしらえして持ち込んだ食材を國井さんが船上で調理するので、パスタはゆでたてだ



「ウミガメが見られる場所がある」ということで、西表島の西端にある崎山湾に移動して、シュノーケリングすることに。国井さんの言葉通り、悠々と泳ぐ姿を撮影することができた

また、スロットルやステアリングの操作に対するレスポンスが非常に滑らかで、操船していても楽しいし、ハルの剛性が高く波当たりが穏やかなこともあって、最高速域でも緊張することなくリラックスして操船でき

る点も好印象だ。ちなみに、燃料半載、大人4人が乗艇した状態での最高速は、搭載されていたGPSプロッターでおよそ40ノットを記録した。ビルターのサイトによれば、同じマーキュリー・ベラード250を2基



ブラケットに差し込んで使用するリボーディングステップも用意されている。このステップの上面も、すべてチークとなっている念の入れよう

搭載した場合、4000回転/分で約29ノット、5000回転/分で約39ノット、最高の6200回転/分で約49ノットとのデータが公表されている。ただ、このカタリナ29サンテnderは、高速性を発揮するポテンシャルがあったとしても、船外機やトリムタブを細かく調整しながら、フルスロットルで最高速をねらうといった走り方は似つかわしくないだろう。特に、(●●●●●●●●●●)のようにゲストを乗せ、海の上での優雅なひとときを味わってもらいたくならぬおさら。「いざとなればかつ飛ばすこともできる」という力を秘めながら、十分なスピードが得られ、なおかつ、安心して乗っていられる4000回転/分程度の巡航速度で余裕たっぷりに走ったほうが、その洗練されたスタイリングにもマッチしていると思うのだ。



(●●●●●●●●●●)の拠点である祖納(そない)港にて。パウデッキとサイドデッキ、スイムプラットフォームなどはチーク張り。オプションで、フロア全面をチークにすることも可能だ



高性能と上質な乗り心地 優美さと実用性を併せ持つ装備にも注目

*
西表島という絶好のゲレンデと、名門ビルターが手がけたポート、そして、国井さんのホスピタリティーが三位一体となったメラマウリゾートの海のツアー。機会があればこのツアーを利用して、カタリナ29サンテnderの走りを体感し、そのディテールをつぶさに見てみてはいかがだろうか？



パウスペースにはU字形のソファと、昇降式のテーブルがあり、テーブルを下げてフィラークッションを置けば、広いサンベッドとなる。シート下はドライブトレージ



パウのハッチ内には、ステムにセットされたアンカー用のウインドラス。最前部のハート形の金属パーツは舷灯のカバーで、上パウクリートに結ぶロープのフェアリーダーを兼ねている



コンソール前のシートを跳ね上げると、内部は個室トイレ。手洗い用のウォッシュボウルも備わっており、限られたスペースながら、必要なものがきっちろそろっている点は見事



コンソール前部は、2人掛けのベンチシート。このシートも、ドライバー＆ナビシートも、ブランドロゴの刺しゅうとキルティングによって、上品な豪華さを演出している



左舷側には、デッキウォッシュを設置。フロアに敷かれたビニール製のカーベットは、南国テイストを醸し出す竹ラグ風。織物の風合いが素足に気持ちいい



ヘルムステーションは、両サイドを立ち上げたような独特の形状。メーターやスイッチ類は水平面に収められているので、インストパネルには、大型航海計器もビルトインできる



マーキュリーの4ストローク船外機、ベラード250(250馬力)の2基掛け。左舷側には、スイムプラットフォームとコクピットをつなぐ通路として、トランサムゲートとステップが用意されている



ソフトトップには、アフトコクピットまでスライドする延長部分が設けられている。標準装備だが、特に沖縄で稼働するこのボートにとっては、うれしい装備だ



モデル名の通り、沖泊めしたメガヨットと陸とを結ぶテンドーとしての使い方も想定しているのではないかと思います。その場合、オーナーやゲストは、つかの間の水上移動中、このスペースでくつろぐのだろう

クリスクラフト・カタリナ29 サンテンドー

●全長：8.9m(スイムプラットフォーム含む) ●全幅：3.1m ●乾燥質量：3,175kg(エンジン除く) ●エンジン：マーキュリー・ベラード(250馬力)×2(ベラード300×2も選択可能) ●燃料タンク容量：832.8L ●清水タンク容量：117L ●定員：★人 ●航行区域：限定沿海 ●価格：185,871USD(ドル+税(マーキュリー・ベラード250×2))

問い合わせ：ジェントルブリーズ
〒364-0035 埼玉県北本市西高尾5-175-2 TEL:048-592-9078
<http://www.gentlebrezeczyachts.com/>